

性的マイノリティの人権

誰もが自分らしく生きやすい社会を

性的マイノリティとは、自分の性に違和感がある人や、同性に恋愛感情をもつ人などのことをいいます。「性的少数者」「※LGBT」とも呼ばれています。その割合は、13人に1人ともいわれています。この数字は、学校や職場、地域の仲間として、あるいは家族として、身近に存在していることを示しています。

性的マイノリティに対する偏見

性的マイノリティであるかどうかは、自分の意志で選択や変更ができるものではありません。しかし、「人間は男性と女性の2種類しかない」「同性愛は病気だ」などの誤解が多い中では、性的マイノリティであることを明らかにすることが難しいため、身近にいないように感じがちです。このように、性的マイノリティへの理解が不十分な現状においては、自分の心と体の性が一致しないと感じる人は、性別に対する違和感を持ちながらも、ありのままの自分を隠して生きざるを得ない現実があります。

世界の動き

国際オリンピック委員会は、2014年の臨時総会で、「性的指向によって差別されない」との文言を追加することをうたい、憲章の改正を行いました。国連でも「LGBTへの差別禁止」を打ち出しており、国際的には「LGBT」を当たり前の存在として認めることが常識となりつつあります。

正しい認識や理解を深める学習を通し、多様な性を抱える人たちへの理解を深め、社会が受け入れていくことが必要です。

※LGBTとは、レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシャル(両性愛者)、トランスジェンダー(性同一性障害など)の頭文字をとった言葉。